特定研究大学（仮称）のコンセプト（案）　＜「競争」と「協創」＞

資料２

国際的な研究・人材育成拠点／知の協創拠点となる国立大学→優秀な人材を惹きつける世界最高水準の教育研究を展開するべく、その卓越性を伸張するとともに、分野融合、社会連携、国際協働などの取組をすすめる大学

評価

大学全体での目標共有
海外大学をベンチマークした目標設定

海外の学長経験者等も含めた目標設定の審査と評価

学内評価の充実（研究評価、教員業績評価）

○ 新たな価値創造、イノベーション
○ 新たな社会システムの構築

研究力強化

・分野融合、新領域の開拓
・国際協働

人材獲得・育成

卓越大学院（仮称）の活用

人事給与システム改革
・教員の給与水準や処遇の多様化
・若手研究者へのスタートアップ支援
・卓越研究員制度の活用

大学院の定員管理の弾力化（総枠の中での変更の弾力化）
・大学院生の経済的支援の充実（RA・TA、奨学金）

優秀な教員の獲得

優秀な大学院生の獲得

社会との連携

・研究成果の社会への還元
・産学連携の強化
・多様なベンチャー創出

社会的評価

大学の執行部において戦略的投資を実行（財源の不足分は自己収入で）

ガバナンス強化

・学長のリーダーシップ
・経営への第三者参画
・専門人材の確保
・学内情報の可視化と共有
・学外への情報公表

財務基盤の強化

運営費交付金の確保

間接経費の拡充

＋

自己収入

・寄附金の確保、産学連携収入の拡大
・大学の知を活用したコンサルティング会社への出資のリターン

＋

【資産の有効活用】
・蓄積された資産の運用
・不動産の貸付け

「壁」
○固定化された組織・教員・学生
○学問分野の硬直化
○横並び主義
○形式的な評価

→ **さまざまな「壁」を打破**